

女性研究者のオンラインカフェ 開催報告

分野を超えた女性研究者同士の交流、若手研究者や、研究職に関心のある学部生に向けたロールモデルの発信を目的に、女性研究者が自由に語り合うオンラインカフェを開催しました。

【日時】令和4年8月9日(火) 16:00-17:00

【場所】Zoom

【参加者】16名

【内容】海外とつながった研究に取り組まれている学内の研究者に、どのように海外との研究を進めているのか、海外との研究を行うのに必要なことは何か、工夫していること、大変だったことなどを自由に話していただく。

【話題提供者】成田真樹子(人文社会科学系(経済学系)・准教授)・辻麻由美(生命医科学域(保健学系)・助教)

【コメンテーター】清田智子(グローバル連携機構・准教授)

【開催内容】

まず、司会から開催の経緯についての説明をしました。昨年度、センターでは、コロナ禍で海外渡航が難しい中、いかに海外とつながった研究を支援していくかということで「語学学習支援」を行いました。話題提供者の成田先生と辻先生も、この支援を利用され、そして支援終了後の報告書で、自身の海外との研究活動に活かしたことを報告されていたので、今回の企画への協力をお願いしました。

辻先生は、老年看護学がご専門で、現在、助教を務めながら、慶応大学で博士課程3年目をしています。そこで、今後、英語による研究論文等を書いていくため、また海外の先生から研究のコンサルテーションを受けるために語学学習支援を利用しました。実際にどのようにコンサルテーションを受けているのかもお話ししていただきました。成田先生は、スペインの経済(企業立地や地域格差など)を研究しています。博士課程の時にマドリッド自治大学に1年留学した経験もあるのでスペイン語はできるので、もっと洗練された英語を習得したいと語学学習支援を活用しました。留学先の決め方や費用のお話、海外調査研究への参加経験、海外の研究者との出版経験などについてもお話をうかがいました。コメンテーターの清田先生からも、ご自身の海外での豊富なキャリアや、語学力についても示唆に富む具体的なお話をしていただきました。参加者の方からも、研究と並行しながらどのように語学力を磨いているのかや、ご自身の留学経験や留学中の苦労などお話ししていただきました。

海外研究を進めるための具体的な情報だけでなく、研究への取り組み方や、研究の経験を聞き合うことを通して刺激を受け合う時間になりました。

【参加者からの声】

- 英語を勉強しようと思いました。
- これまで海外留学や語学学習方法について、他の先生方のご経験などを伺う機会が無かったので、とても楽しかったです。
- みなさんいろいろ頑張られているのだなと励みになりました。
- 自分の研究を進めたり、深めたりするなかで、研究の進め方について知らないことがたくさんあるように感じました。今は、すべてが勉強という私ですので、きちんと感想を述べるほど理解が及んでいない話題もございましたが、みなさまのお話がとても印象に残りました。研究を進めていきたい、学びたいという気持ちが大きくなりました。
- 先生方のご経験や語学の勉強方法などをお聞きでき、大変参考になりました。語学は楽しんで勉強したいと思いました。ありがとうございました。
- 語学学習を仕事や研究の息抜きにしているという話が印象的で、語学学習の捉え方を考え直すきっかけになりました。
- 先生方の豊富な海外経験のお話を聞いて刺激になりました。また、アットホームな雰囲気良かったです。ありがとうございました。
- 海外で研究するためには、専門的な英語力を上げる必要があると先生方のお話から感じました。また、語学の勉強を楽しむことが継続的に語学力を保つために大切だということがわかりました。
- 外国語を習得する努力を、皆さん日々継続して行っておられることが分かり、とても良い刺激になりました。貴重なお話をありがとうございました。